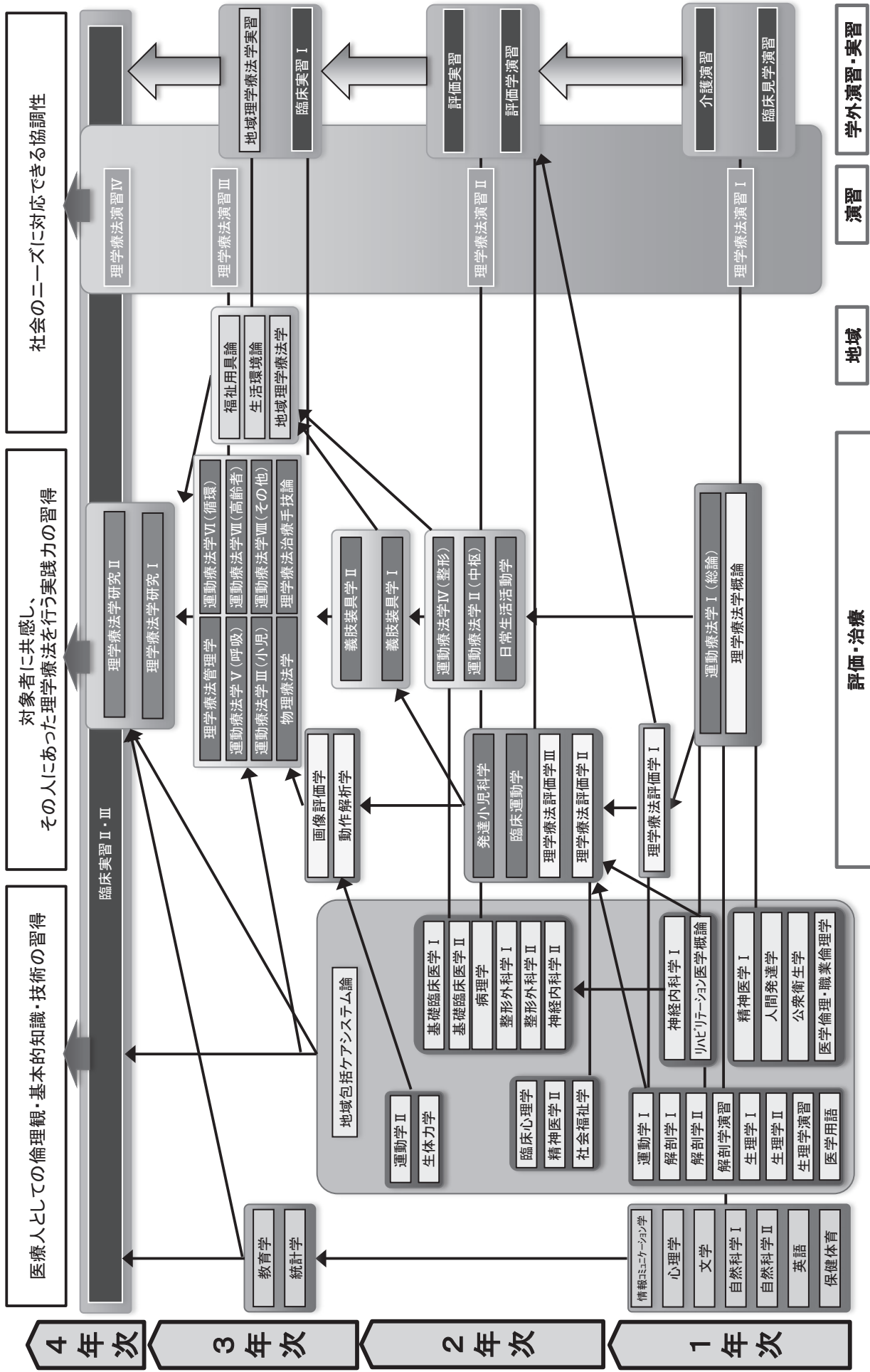


理学療法学科 カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		情報コミュニケーション学	1	30							1	30		
		統計学					2	30			2	30		
基礎分野	小計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学Ⅰ	4	60							4	60		
		運動学Ⅱ			2	30					2	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
		生体力学			2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		14
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
		臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学	
		臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整形外科Ⅰ			2	30					2	30		
整形外科Ⅱ			2	30					2	30				
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4	
	社会福祉学			1	15					1	15			
	地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む		
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	1	15							1	15			
専門基礎分野	小計	33	525	27	405	2	30	0	0	62	960		30	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準	
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数					
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6	
		臨床運動学			2	60					2	60			
		発達小児科学			1	30					1	30			
		臨床見学演習	1	30							1	30			
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		6	
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30			
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30			
		動作解析学					1	30			1	30			
		画像評価学					1	30			1	30			
		評価学演習			1	30					1	30			
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		20	
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60			
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む		
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30			
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30			
		理学療法治療手技論					2	60			2	60			
		物理療法学					2	60			2	60			
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30			
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30			
		日常生活活動学			1	30					1	30			
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30			
		理学療法学研究Ⅱ								1	30	1	30		卒業論文作成含む
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30			
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30			
		理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30			
	理学療法演習Ⅳ								2	60	2	60			
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		3	
		地域理学療法学			1	30					1	30			
		福祉用具論					1	30			1	30			
介護演習		1	30							1	30				
臨床実習	評価実習			3	120					3	120		20		
	地域理学療法学実習					1	40			1	40				
	臨床実習Ⅰ					7	280			7	280				
	臨床実習Ⅱ							8	360	8	360				
	臨床実習Ⅲ							8	360	8	360				
専門分野	小計	7	210	17	540	26	860	19	810	69	2420		57		
	総計	52	945	44	945	32	950	19	810	147	3650		101		

理学療法学科カリキュラムツリー



4 年 次

目次：理学療法学科 4 年次

理学療法学研究Ⅱ	97
理学療法演習Ⅳ	98
臨床実習Ⅱ	99
臨床実習Ⅲ	99

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法学研究Ⅱ
代表講師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な研究活動の手順を身に着けるため、各々の専門性を持った教員の指導の下、研究の進め方やデータの統計処理、プレゼンテーションの作成等について学ぶ。				
授 業 概 要	各教員ごとに学生を分担し、データ収集、統計処理、考察および研究発表まで指導し、研究論文作成を学習する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 論文の構成と研究進め方について理解することができる。 収集したデータの統計処理を適切に行うことができる。 結果と先行研究に基づき、考察を述べることができる。 科学的・論理的思考の下、論文をまとめることができる。 				
成績評価の方法と基準	卒業論文発表内容の評価 (100%)				
テキスト・教材等	配布資料、他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	研究データ収集と分析				坂崎浩一 池田耕治 福島芳子 高田理恵子 加藤孝則 明瀬敬二 次山航平
第2回					
第3回					
第4回					
第5回	統計処理と考察				
第6回					
第7回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第8回					
第9回					
第10回					
第11回	卒業研究発表 発表7分、質疑3分でのプレゼンテーション				
第12回					
第13回					
第14回	卒業論文集用原稿の作成				
第15回					

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習IV
代表講師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身につけるため、各々の専門性を持った教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な動作観察及び分析の方法について学ぶ				
授業概要	1年次では「リハビリテーション医療」における身体に関する基本的知識を学び、2年次では「解剖学」「生理学」「運動学」の3教科を臨床に向かうため応用することを学んだ。3年次では臨床場面で多く経験する疾患について、理学療法の展開において症例を把握するために、治療場面を想定して思考・実践することを学んだ。4年次前期では症例の動作観察及び分析を的確に行い、運動療法・治療に役立てる思考を学ぶ。				
到達目標	理学療法士としての基本的知識技術の確認、および臨床実習に必要な動作観察、分析、指導ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	前期：形成的評価(100%) 後期：形成的評価(70%)・筆記試験(30%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	演習①動作観察及び分析のポイント(身体重心の位置・関節モーメント)について理解し、説明できる。				加藤 孝則 明瀬 敬二
第2回					
第3回					
第4回					
第5回	演習②脳血管疾患における動作(起居動作～歩行)の観察及び分析方法について理解し、説明できる。				池田耕治 加藤孝則 明瀬敬二
第6回					
第7回					
第8回					
第9回	演習③整形外科疾患における動作(起居動作～歩行)の観察及び分析方法について理解し、説明できる。				福島芳子 高田理恵子 次山航平
第10回					
第11回					
第12回	車いすプロジェクト				非常勤講師
第13回					
第14回	代謝・循環:エネルギー代謝や循環機能(運動時の循環動態)について理解し、説明できる。				加藤 孝則
第15回					
第16回					
第17回	呼吸:呼吸機能(呼吸筋活動・呼吸調節)について理解し説明できる。				明瀬敬二
第18回					
第19回	筋:骨格筋の構造や筋収縮のメカニズムについて理解し、説明できる。				次山航平
第20回					
第21回	神経・感覚:神経線維の特徴や感覚器について理解し、説明できる。				池田耕治
第22回					
第23回	消化・吸収・排泄:消化や排泄機構について理解し、説明できる。				福島芳子
第24回					
第25回	血液・免疫:血液の整理や免疫機能について説明できる。 内分泌:ホルモンの名前、作用と分泌器官について説明できる。				高田理恵子
第26回					
第27回	病理:炎症、創傷治癒の過程、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、説明できる。				明瀬敬二
第28回					
第29回	試 験				
第30回					

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅱ
代表講師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授業概要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到達目標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE(客観的臨床能力試験)(50%)・ポートフォリオ(30%)・筆記試験(20%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
8週間	期 間：2023年5月15日(月)～7月8日(土) 学習内容： ・臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 ・理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 ・患者に対する総合的リハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 ・医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習 指導者

学 科	理学療法学科 4年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅲ
代表講師	明 瀬 敬 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授業概要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到達目標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE(客観的臨床能力試験)(50%)・ポートフォリオ(30%)・筆記試験(20%)				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
期 間	授 業 内 容				担当講師
8週間	期 間：2023年7月24日(月)～9月16日(土) 学習内容： ・臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 ・理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 ・患者に対する総合的リハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 ・医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習 指導者